



をして目標を達成してほしい。健闘を祈ります。

(小林(健))

## 小さな一歩

みなさんは最近何かをきっかけにあたらしい一歩を踏み出したことはあるだろうか。私は偶然聞いた一人の男性の講演をきっかけに小さな一歩を踏み出した。なんてことはない、それはただ南に面した窓辺にコップ一杯の冷えた水を置くぐらいのことである。その一人の男性の名は青山繁春、講演の内容は硫黄島に関するものだった。

東京都小笠原村硫黄島。日本のはるか南の海上に浮かぶ小さな島。「硫黄島からの手紙」という映画でその名が世間に多く知られるようになったが、私の知識といえは何かこの島で起こったかおぼろげながら知っている程度で、島の名前が「いおうじま」ではなく、正式には「いおうとう」と読むことさえも知らなかった。この講演の内容については私の力量ではうまく伝えきれないので、是非インターネットの動画サイトYouTubeに彼の講演がアップされているのでご覧いただきたいが、かいつまんで話せば、硫黄島は第2次世界大戦末期アメリカからの本土攻撃を一日でも遅らせ、本土の女性・子供の命を一人でも助けるためにと激戦が繰り広げられた場所だが、そこで亡くなった方の遺骨の多くが戦後六

十五年以上たった今も今なお回収されることなく眠ったままだという。遺骨を引き取ることができず置き去りしなければならなかった遺族の方々の胸中にはいかなるものである。先の震災で、せめて遺体だけでも見つかったくれればと願う家族の方々をたくさん見てきて、その気持ちを想像するに難くはない。一日でも早く遺族のもとに遺骨が帰るよう、また、この歴史を忘れぬよう青山氏が実践されているように、私も硫黄島のある南に面する窓辺にコップ一杯の冷やした水を置くようになった。

偶然聞いた彼の講演がこうして私に小さな一歩を踏み出させたわけだが、自分の行動が自分の知らないところで誰かに影響を与えているものだ。私がコップ一杯の水を窓辺に供え、こうし

て記事になっているとは当の青山氏も思いもしていないことだろう。また、この記事をきっかけに、私の知らないところで彼の講演を聴き共感し水を置く人が出てくるかもしれない。よく世の中自分ひとりが動いたところで何も変わらないということを目にするのが、一見自分ひとり孤立無援に見えていても、当の本人は気づかないだけで見えないところで共感している人がいるものだ。だから自分一人がと悲観的にならず共感してくれる仲間がいることを信じ進んでいって欲しい。歴史をみても後世に残る大きな出来事は往々にして小さなことに端を発していることが多い。一例を挙げれば、黒人女性のローザパークス



さんが白人にバスの座席を譲らなかつたことが後の公民権運動の導火線になったという事例もある。何か新しいことに一歩踏み出すことは何かと不安が多いが、一歩踏み出すことがこれから起こる何か大きいことへのスタートになるかもしれないと考えると、その一歩を踏み出す足も軽やかにならないだろうか。私が踏み出したこの一歩も次第に多くの人の知るところとなり遺族のもとに遺骨の帰る日が来ると信じ、今日も窓辺に水を供える。

(小池)

## 「初」の喜び

前回、娘の記事を書いたところ、生徒から「親バカですね(笑)」と笑われましたが、めげずにまた書きます！

四月に産まれた娘も、あつという間に九か月が経ちました。気づけばこの九か月で、お座りができるようになったり、離乳食を食べられるようになったり、つかまり立ちができるようになったりと、娘



の「初」の瞬間に幸運にも何回も立ち合うことができました。その瞬間、毎回夫婦揃って「感動」して大騒ぎをします。そんなに何度も見るわけではないのですが、デジカメやビデオカメラで撮ったり、画像を現像して親戚にくばったり。傍から見たら、「なんでそんなに嬉しいの？」と思うかもしれません。

しかし、どんな些細なことでも、自分の娘が出来なかつた事ができるようになると、親というのはとにかく嬉しいし、褒めてしまえます。そして家族みんなが笑顔になることができる、そんな瞬間なのだと思います。

みなさんのご家族の方も、みなさんが何か新しいこと(些細なことでも)が出来るようになったら、同じように「感動」すると思います。デジカメで撮って大騒ぎ、とまではいかないかもしれませんが。私の娘と皆さんとは大きく異なる部分があります。娘のような小さい頃は、親の目の前でいろいろな事ができるようになっていきますが、皆さんの場合、その瞬間の多くが学校だったり塾だったり、家外で起きている点です。皆さんの保護者はそういった瞬間を見たり知る機会がとてもなくなくなっているのではないのでしょうか。親の立場からだと、とても残念だし、寂しいことだと思います。

みなさんが今日、初めて何かができるようになったら、是非家族に話してください。どんな些細なことだって、親はうれしいものです。「そんなの大したことない」なんて言わないはずですよ。我々も、皆さんが、「塾で初めてこの〇〇が分かった!」「できるようになった!」と、家族に報告できるように努力します。一緒にがんばりましょう。

(長坂)

### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。